

公益財団法人 全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第62回 ビジネス文書実務検定試験 (1.6.30)

第1級

速度部門問題

(制限時間10分)

試験委員の指示があるまで、下の事項を読みなさい。

〔書式設定〕

- 1行の文字数を30字に設定すること。
- プロポーショナルフォントは使用しないこと。

〔注意事項〕

1. ヘッダーに左寄せで受験級、試験場校名、受験番号を入力すること。
2. 問題のとおり、すべて全角文字で入力すること。
3. 長音は必ず長音記号を用いること。
4. 入力したものの訂正や、適語の選択などの操作は、制限時間内に行うこと。
5. 問題は、文の区切りに句読点を用いているが、句点に代えてピリオドを、読点に代えてコンマを使用することができる。ただし、句点とピリオド、あるいは、読点とコンマを混用することはできない。混用した場合はエラーとする。
6. 時間が余っても、問題文を繰り返し入力しないこと。

受験番号

第62回 ビジネス文書実務検定試験 (1.6.30)

第1級 速度部門問題 (制限時間10分)

日本の農産物は、安全性が高く味が良いといわれており、国内外から高い評価を得ている。一方で、農業には多くの課題があり、特に担い手不足が深刻だ。その背景には、従事者の高齢化や離農者の増加がある。また、専門的な知識や技術を必要とすることが、新規の参入者を阻む一つの要因となっている。このような課題を解決するものとして、スマート農業が注目されている。	30 60 90 120 150 173
これは、ICTやAIなどを活用する新しい農業のことだ。収穫や農薬の散布にロボットやドローンを使えば、労働力不足の解消ができ、生産性の向上も見込める。また、データの収集から解析までが容易になり、状況に合わせて肥料や水などを与える農作業を的確に行える。さらに、経験や勘をデータ化して共有すれば、新規参入しやすくなる。	203 233 263 293 323 331
海外ではすでに成功を収めている国があり、オランダがその代表といわれている。以前、オランダの農業は、安い農産物の大量輸入により危機的な状況に陥った。そこで、国を挙げてスマート農業への転換を図った。例えば、栽培用ハウスにセンサーを取り付けて、温度や湿度などをコンピュータで管理した。その結果、国土は九州とほぼ同じ大きさであるが、現在では世界第2位の農産物輸出額を誇っている。	361 391 421 451 481 511 518
スマート農業の導入には多額の初期費用を要するため、日本ではまだ事例が少ない。そのため、政府は国内50か所にモデル農場を整備し、普及に向けて実証実験を始めるという。また、これまでは農業に関連が薄かったIT企業が、導入や運用などのサービスを始めており、新たなビジネスの可能性も広がっている。スマート農業が普及することで、農業が魅力ある産業となり、担い手の増加につながることを期待したい。	548 578 608 638 668 698 710